

## 2. 流域の概要

# 自然的状況の概要

P.2-1)

## 流域の自然的状況

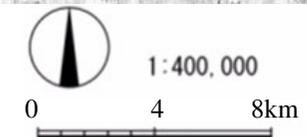
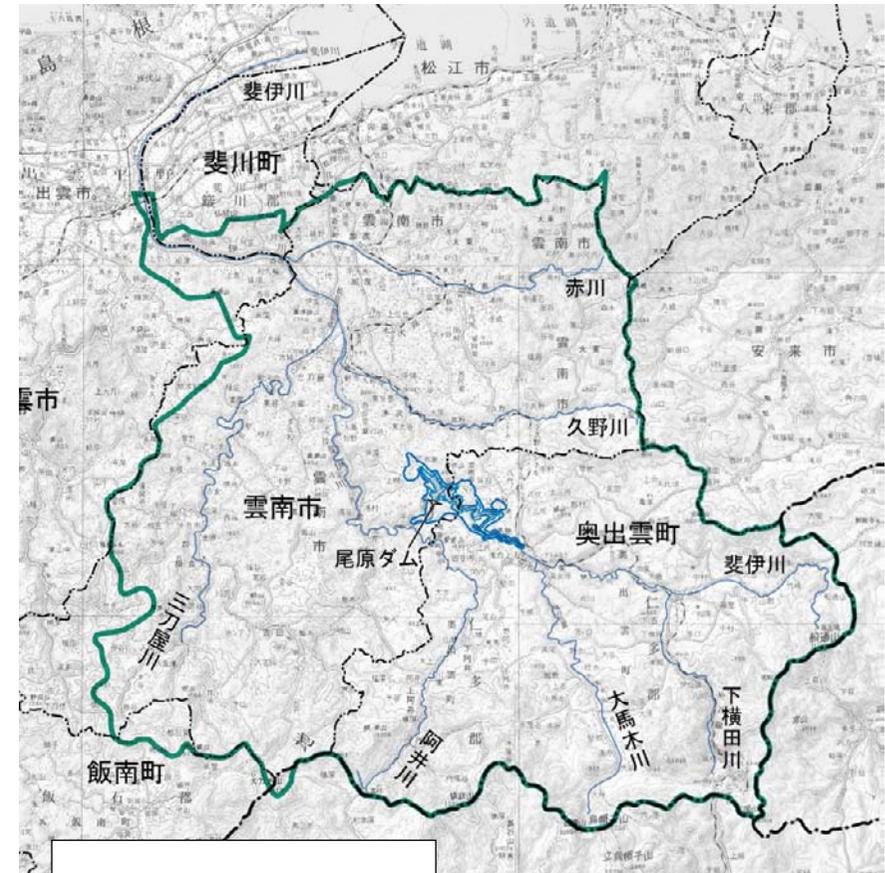
斐伊川の大津地点より上流を  
対象に整理

	整理文献
地形	「土地分類図(地形分類図) 島根県」 (国土庁 昭和46年)
地質	「日本の地形レッドデータブック 第1集」 (小泉武栄他編 平成12年)
	「日本の地形レッドデータブック 第2集」 (小泉武栄他編 平成14年)
	「島根県の文化財」 (島根県文化財愛護協会 平成11年)
植生	「第2回 自然環境保全基礎調査」 (環境省 昭和60年)
	「第3回 自然環境保全基礎調査」 (環境省 昭和60年)
	「日本植生誌 中国」(至文堂 昭和58年) など
気候	「気象庁 電子閲覧室気象データ」 (昭和51年～平成20年)

※ 平成20年12月末時点で最新の文献で整理した。

自然的状況の調査範囲は、景観を除く各項目のうち最も広い水環境の調査範囲に従い、斐伊川の集水域とした。水環境の調査範囲は、ダムの上流域の全域と、ダム流域面積の3倍程度の面積に相当する下流域とした。

(「ダム事業における環境影響評価の考え方 (河川事業環境影響評価研究会 平成12年)」に基づき設定。)



# 自然的状況の整理結果

	概要
地形	<ul style="list-style-type: none"><li>●大部分が道後山山地に属し、一部が出雲平野に属している。道後山山地に属する範囲は、中起伏山地、小起伏山地、大起伏丘陵地等によって、出雲平野に属する範囲は、三角洲性低地等によって形成されている。</li><li>●尾原ダム堤体予定地の周辺は、道後山山地に属し小起伏山地が分布している。</li></ul>
地質	<ul style="list-style-type: none"><li>●花崗岩類、安山岩質岩石、集塊岩・凝灰角礫岩、砂岩・泥岩等より形成されている。</li></ul>
植生	<ul style="list-style-type: none"><li>●上流域は、ブナクラス域(落葉広葉樹林帯)に属し、中流域から下流域は、ヤブツバキクラス域(常緑広葉樹林帯)に属する。</li></ul>
気候	<ul style="list-style-type: none"><li>●尾原ダム近傍には田井雨量観測所があり、その観測結果は年平均降水量1,609mmである。また、降水量は7月が最も多い。</li></ul>

# 社会的状況の概要

P.2-3)

## 流域の社会的状況

### 自然的状況の調査範囲を含む5市町を対象に整理

	整理文献
人口	「平成18年度島根県統計書」(島根県 平成20年)の昭和50年～平成17年のデータを整理
産業	「平成18年度島根県統計書」(島根県 平成20年)の平成17年のデータを整理
土地利用	「平成18年度島根県統計書」(島根県 平成20年)の平成18年度のデータを整理

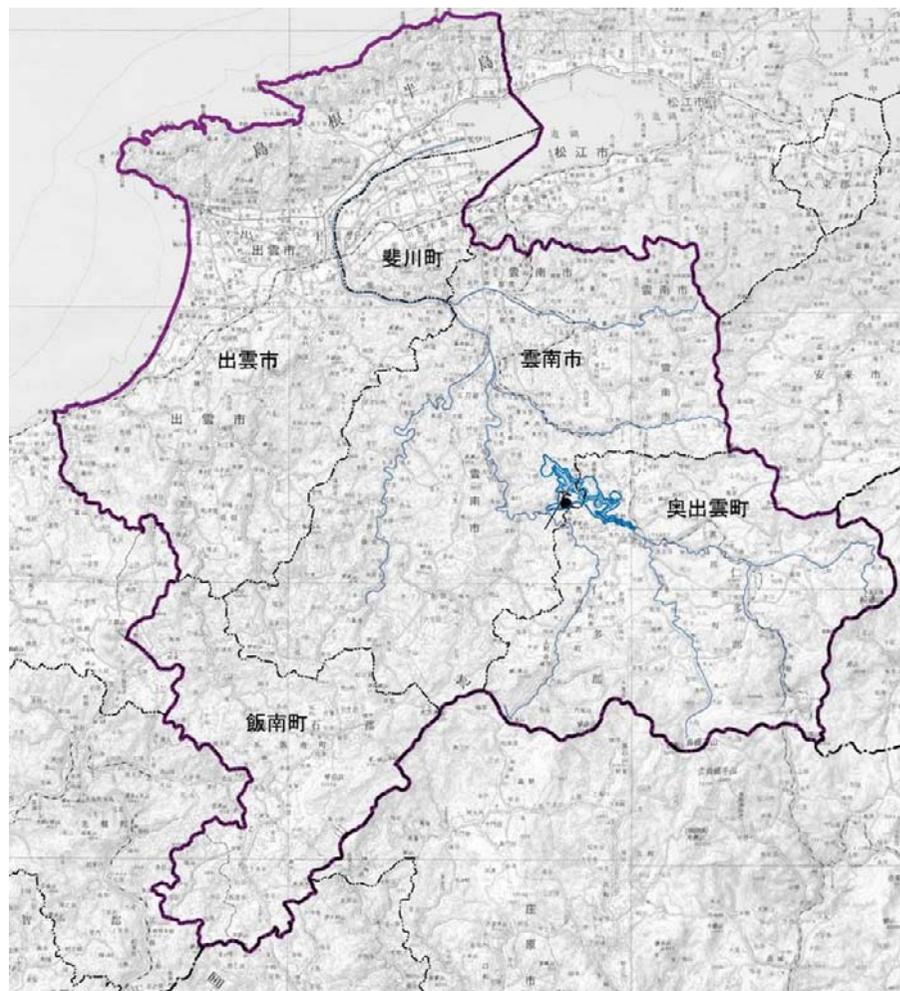
※ 平成20年12月末時点で最新の文献で整理した。

0 8 16km

- 凡 例
- : ダム堤体
  - : 貯水予定区域
  - : 県界
  - : 市町村界
  - : 調査範囲

社会的状況の調査範囲は、対象事業に係る環境影響を受ける範囲(斐伊川の集水域を対象)を含む市町村とした。

(「ダム事業における環境影響評価の考え方 (河川事業環境影響評価研究会 平成12年)」に基づき設定。)



# 社会的状況の整理結果

	概 要
人 口	<ul style="list-style-type: none"><li>●5市町の人口は、約240,000人となっている。</li><li>●出雲市及び斐川町は緩やかな増加傾向にあるが、それ以外の市町はいずれも緩やかな減少傾向にある。</li></ul>
産 業	<ul style="list-style-type: none"><li>●就業者数は、いずれも第3次産業の就業者の占める割合が最も高くなっている。</li></ul>
土地利用	<ul style="list-style-type: none"><li>●斐川町を除く4市町はいずれも一般山林の占める割合が最も高く、50～86%を占めている。</li><li>●斐川町では水田の占める割合が49%と最も高くなっている。</li></ul>